



園だより

文京区立第一幼稚園
令和5年度10月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

自分で殻を割るように

園長 田村 秀子

暑さがようやく一段落し、爽やかな気候となりました。園庭でコオロギをつかまえたり、オシロイバナの花や種をとって遊びに使ったりし、秋の自然に触れて遊ぶ子供たちです。9月の初めには年長児が土の庭に柿が赤く色付いているのを見付け、年長組の子供たちと2個のカキを切り分けて味見をしました。甘くておいしい柿でした。今はフェンスの近くにブドウが実り、「シャインマスカットだ」と喜んでいる子もいます。今年は皆で一房ずつ持ち帰るほど多くはなく、皮が破れてしまっているものも多いので、遊びに使うことにしました。匂いをかいだり、色水に入れたりして楽しそうです。

屋上では秋晴れの空の下で、子供たちがかけっこやリレー、玉入れ、リズム表現などを行っています。皆で遊ぶのは楽しいし、面白いのですが、いつも楽しいわけではありません。勝つ時も負ける時もあったり、難しいと思ったり、相談がうまくいかなかったり、いろいろなことがあります。一人一人葛藤を乗り越えて、たくましく育ってきています。

例えば年長では、綱を握ることや引き合うことが初めての子もいて、「手が痛い」とすぐあきらめてしまうこともありました。でも先生や友達と繰り返し遊ぶ中で、どうしたら力が入るかが分かってきて、重心を落としたり、転んでもすぐに立ち上がって粘り強く頑張ったりしています。リズム表現にジャングルや海の表現を考える場面では、自分の意見を言い出せない子もいましたが、先生や友達に「それ、いいね」と認めてもらい、自信をもってアイデアを伝えたり友達と動いたりしています。

年中の玉入れでは、初めは自分の投げた玉がどこに飛んでいくか分からなかったり、投げた玉をじっと眺めたりしていました。なかなか入らなかったり、玉が頭に落ちてきたりして嫌になった子もいました。でも「勝ちたい」という思いが膨らんできて、繰り返し頑張る玉を投げたり、自分のチームが勝つと大喜びしたりしています。忍者になりきって表現する姿も素敵です。

年少は広い所で走るの大好きですが、走る前に順番に並んだり、よーいピッの合図を待ったり、終わったら座ったりしないといけないので、「自分のやりたいようにできない」と感じた子もいたようです。リズムでも好きな部分だけ踊ったり気持ちが向いた時だけ動いたりしていました。でも少しずつ全体の流れが分かり、かっこよく並んだり、皆と一緒に踊ることが楽しくなったりしています。

そんな子供たちの姿は「たまごねえちゃん」(あきやまただし作・絵)の絵本のようなだと思いました。卵の中に入っていたヒヨコが、お父さんの足を心配して、自分で殻を割って出ていくお話です。子供たちも今、「こうしたい」「これがやりたい」という気持ちをもって、自分の殻を割っている時ではないでしょうか。周りがいくら頑張らせようとしても、本人が「やってみたい」「やってみようかな」という気持ちをもてないと、うまくいかないことがあります。環境を通じた教育の中で、子供たちが友達や先生、環境の刺激から、自分の「やりたい」思いを大切に育んでいけるよう、皆と一緒に見守り、応援していきたいと思います。